

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録  
第5回 帰国してから国鉄労働会館工事まで

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録

第5回 帰国してから国鉄労働会館工事まで

今回も、橋本先輩の資料を直接引用します。

帰国とその後の業績

待ちに待った帰国

3年間の過酷にたえ、ナホトカ港から舞鶴へ

舞鶴で帰国証明と支給品

父母兄弟と再会

上京し再就職

左翼扱いされて

抑留体験で得たものは

数々の難工事に従事して、でも過酷にたえた心身には

自信があった。

無からの発想法

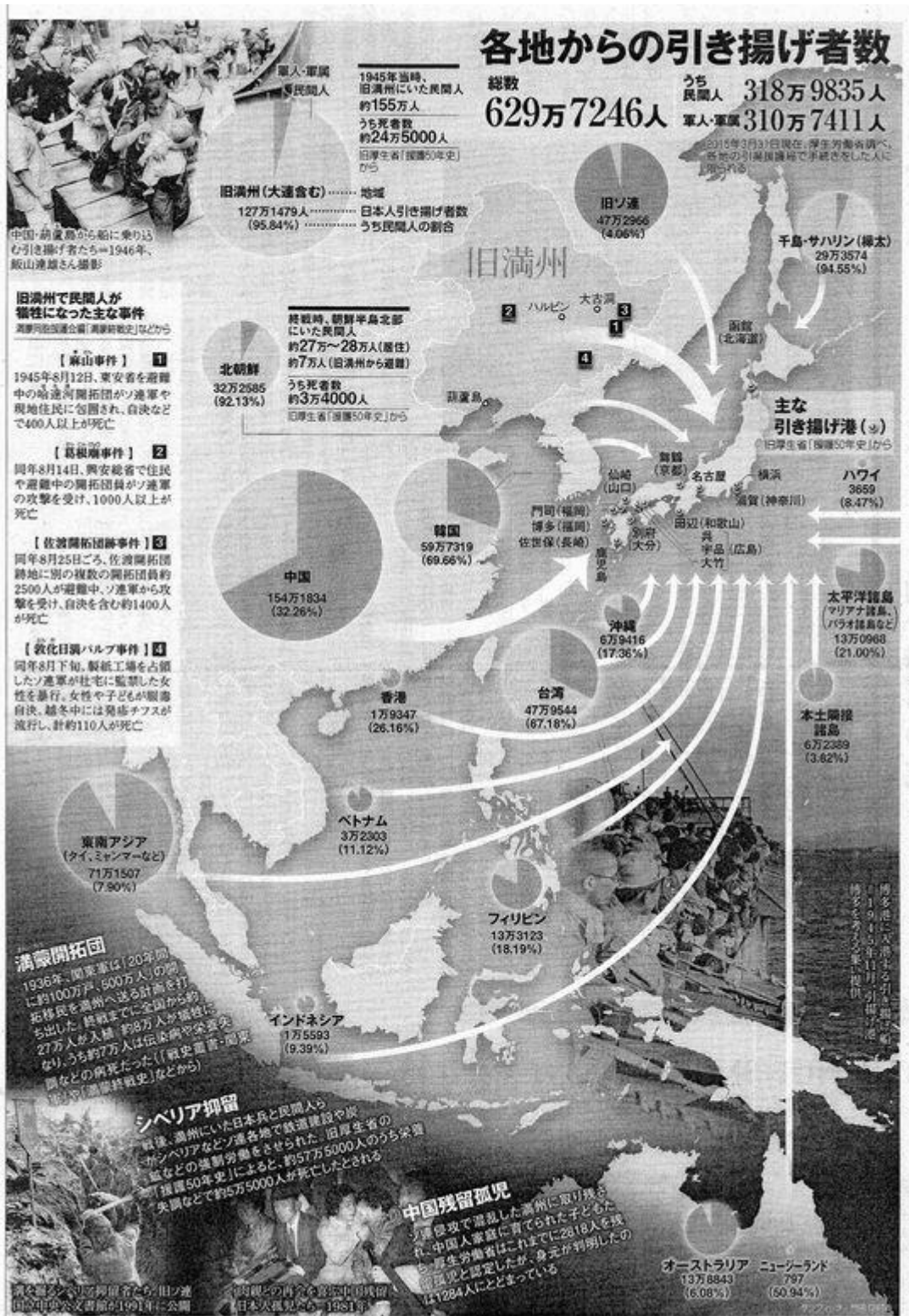
新工法や、特許を生み出す

以上は、帰国とその後の話の引用です。

年	月	日	出来事
1931	9月		満州事変、日本軍、中国東北部で武力行動
	3月		「満州国」建国宣言
	3月		最初の「試験移民」出発
	7月		国連、「満州国」を認めず。日本、脱退を通告
	7月		盧溝橋事件、日中戦争が始まる
	12月		太平洋戦争が始まる
	3月		東京大空襲
	6月		沖縄戦、終結
	6日		米軍が広島に原爆投下
	9日		ソ連、旧満州、朝鮮半島へ侵攻（対日参戦）
	8月		長崎に原爆投下
	15日		昭和天皇が放送で降伏を発表、終戦
	ソ連		千島列島へ侵攻
	9月		日本が降伏文書に調印
	11月		全国で引き揚げ港を指定
	11月		援護局を設置
	11月		日本国憲法公布
	6月		朝鮮戦争が始まる
	9月		ソ連地帯から最後の引き揚げ船が舞鶴に入港
	9月		日本、連合国との講和条約に調印
	9月		ソ連地帯から最後の引き揚げ船が舞鶴に入港
	9月		日中国交正常化
	3月		中国残留孤児 訪日開始

**引き揚げ 捨てられた開拓移民**

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録  
第5回 帰国してから国鉄労働会館工事まで



長い建築屋としてのキャリアの中で、橋本先輩も「失敗談」があります。  
以下の記述は、非常に参考になります。

大事故を経験

**1953年 国鉄労働会館工事の地下工事での大事故、弱鉄骨**

江戸城の外堀を埋め立てたところに、地下3階地上9階のビルを建てる計画で、地下工事を始めた。

始めに外周にシートパイル（鋼矢板）を打ち込み、根伐りを始めた。

掘り込むに従って切り梁（水平支保工）を取り付けて、シートパイルが中に倒れないように支えるのだが、地下3階まで掘ったとき、4段のうち、最上部の一本に腐食材があり、これが破損して、次々に外れてバランスが崩れて、丁度、菓子箱を踏み潰したようになった。

時間がたつに従って、堀の泥水が流れ込んだ大災害だった。

金額、工期遅れ他以計算できるものではなかった。

以後、仮設施行、掘削は建築工事でありながら、土木工事に頼むよう会社の指示が出たのである。

再度、土木部で地下3階まで掘り、捨てコンクリートを打つまでの間、建築屋は口出しの出来ない悔しさを味わった。

この事故以来、私は地下工事のあるビル工事は、慎重さは勿論、材料、工法とも

「発想法（これは私の言葉だが）として、工法はどうあるべきか？」

「材料資材は別にあるのではないか？強度計算は？」

など、夜も寝ずに考えることにしている、というより寝付けないのである。

以後、すべての工事に応用し、考えている例を挙げれば、霞ヶ関ビルの材料を人荷用エレベータで、

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録  
第5回 帰国してから国鉄労働会館工事まで

必要な資材を、数量、日程、置き場所に至るまで、  
計画することである。

専任の作業員「揚重屋（ようじゅうや）」と呼んだ。

この作業員は、私の以前居た現場から団体で連れてきた  
大工の手先グループである。

馴れてくれば地下から地上数階まで計画通りに進む、  
成果は大きかった。

以後、彼らは、工務店から社名を替えて、(株)〇〇揚重（ようじゅう）、  
として都内の超高層ビルを渡り歩けるように発展した。

以上、橋本先輩の資料から「**国鉄労働会館工事事故**」の引用です。

以下に、橋本先輩が帰国されてからの「業績を含めた略歴」を引用記載します。

学歴 昭和16年 島根県県立乙種（短期）工業学校建築科卒業

1941年 鹿島組に就職  
給料最低の40円、大卒85円

1941年 技術徴用され、支那（現中国）派遣軍司令部勤務、  
17歳 設計施工 兵舎ほか

1943年 徴用解除、海軍高松飛行場工事  
特攻隊養成施設

1943年 徴用解除、海軍高松飛行場工事  
特攻隊養成施設

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録  
第5回 帰国してから国鉄労働会館工事まで

- 1943年 満州国境守備隊入隊、陣地構築  
対ソ連要塞陣地構築
- 1945年 シベリア抑留、重労働極限生活、3年間
- 1948年 帰国、建築会社復帰、東京財務局工事  
1000坪4ヶ月、大突貫工事
- 1949年 全国市長会館工事  
市長はこんなに居るのか
- 1950年 米軍三沢空軍基地家族住宅工事  
敗戦国の苦しみを味わう
- 1951年 日仏学院工事  
フランで契約、為替下落赤字
- 1952年 後樂園アイススケート場工事  
大突貫工事、開場広告を恨む
- 1952年 興国人絹パルプ経堂寮工事  
麦畑の青麦を刈る
- 1953年 慶応義塾大学非日吉寮工事  
米軍接收解除後の復元
- 1953年 国鉄労働会館工事  
地下工事での大事故、弱鉄骨
- 1954年 東京電力鶴見火力発電所工事  
当時日本最大の発電所
- 1955年 古河マグネシウム小山工場工事  
石灰石からマグネシウム

偉大なる先輩 — 橋本清春氏の回想録  
第5回 帰国してから国鉄労働会館工事まで

- 1956年 八重洲ビル改修増築工事  
米軍接收解除後の復元
- 1957年 日本通運東京総括主管支店工事  
13ヶ月で大ビルを完成
- 1959年 日本水産晴海冷凍工場工事  
鯨肉 12,000 トンの冷蔵庫短工期完成
- 1960年 東京横須賀火力発電所工事  
当時日本最大の発電所
- 1963年 電電公社成増電話局工事  
近隣対策に悩む
- 1964年 共同通信会館工事  
27億円特命受注、大工事

今回は以上です。

帰国後、大変苦勞されたのですね。

つづく。